

新定

中等習字帖

上

K220.72  
49  
1

K220.72

49

1

橋本文壽編

玉木愛石書

新定  
中  
等習字帖

上



大  
阪京

開文館發行

緒言

一本書ハ中學校及ゼコレト同程度ノ諸學校教科用書ニ充ツル目的ヲ以テ編纂セシモノナリ  
一本書ノ材料ハ現今中學校ニ行ハル、國語讀本及ゼ漢文讀本ト連絡ヲ保チ、普通ノ文字ニ習熟セシメ、且ツ雅言・格言・詩歌等ヲ採輯シ、練習ノ傍、諷誦シテ興味ヲ感ゼシメ、學生ヲシテ倦怠ノ念ナカラシメンコトヲ勉メタリ  
一本書ハ中學校教授要目ニ從ヒ、上卷ハ楷書・行書トシ、中・下二卷ハ行書

ヲ主トシテ楷書・草書ヲ交ヘ、上・中二卷ニハ大字・細字及ゼ假名ヲ納メ、下卷ニハ細字及ゼ假名ヲ納メタリ  
一本書ハ毎回課スルニ左右二頁ヲ以テシ、隔週毎ニ淨書セシムルモノトス

編者識

兩陛下。聖德御。

上  
一

代前古未曾有。

廣公益開世務啓

發智能成就德器。

學の海に漕ぎ出でてわれらは  
中學一年生。うれしうれし何と

なく。ゆくてはいづこいづこか  
ゆくて。水天一碧彼岸は遠し。

旅順口。要塞。要害。

上  
四

砲彈。鐵條。網。鹿柴。

玉不琢不成器

上五

人不學不知道。



風船。空中船。飛行。

上六

機。構造。材料。探檢。

松風清き夕波に月もよせ來る須磨の浦  
關屋は跡ものこらぬど人の心やとまるらん。

波間にしづく秋の夜の月の光のあかし瀉  
昔はそこの白珠をあまの男狭磯やかづきけん。

花は櫻木人は武士。

旅は道づれ世は情。

田園梨畑玉蜀黍。

上九

茄子葱畝雜木林。

吾嘗終日而思矣不

上十

如須臾之所學也。

御承知の如く明夕は中秋に候が一昨年も昨年も兄と  
共にさやけき月影を賞せしと今年に限りその樂を

上  
土

共にせざるは心にも残念に存せられし間是非  
御来遊下されたくはまづは御案内まで。早く敬具。

霜滿軍營秋氣清  
數行過雁月三更

上十二

越山并得能州景  
遮莫家鄉憶遠征。

鈴蟲機織山雀初

茸。猶。櫟。銀。杏。紅。葉。



男兒立志出鄉關  
學若不成死不還

上十四

埋骨豈期墳墓地  
人間到處有青山。

健全ナル精神ハ健

上十五

康ナル身體ニ宿ル。

元就戒諸子曰兄弟  
猶此箭也和則相依

上十六

濟事不和則各人各  
敗汝等銘心勿忘。

夏みき事のおほはるよたつとれかし  
かぎりある身のちかからたぬをん。

あせはなるなをうぬばならぶたなるわづらひ  
なをぶとまはる人のほおたをん。

都會繁華新聞社。

上文

田舎長閑雪景色。

人常咬得菜根

上十九

則百事可做。

一小猴人の鬘を剃るを見て刀を  
偷みこれに擬してみづからその

鼻を傷く。世の習はずして事に  
従ふもの多くはよのたぐひなり。

額に痛手負はぐ負へ  
背は見せじむかふ

上世

野山の露よりも命  
はかるし名は重し。



29207

# 玉木文壽



上世三

明治四十四年十月廿六日印刷  
明治四十四年十月廿九日發行

明治四十五年一月二日訂正印刷  
明治四十五年一月九日訂正發行

定價各金拾九錢

編者 橋本文壽

書者 玉木水三郎

發行兼  
印刷者

發行者

東京市神田區表猿樂町廿三番地

大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番地

森本謙藏  
森本專助

東京市神田區表猿樂町廿三番地  
大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番地

## 開文館

